



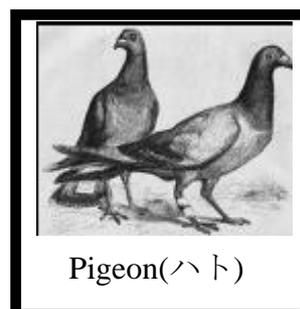
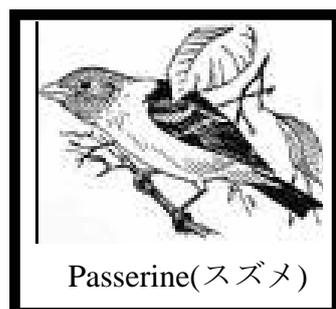
バードストライクに関する最新のレポート

～ICAO Electronic Bulletin～

ICAO から発行された 2001~2007 年の Bird Strike に関する分析レポートを紹介します。全ての Data は IBIS(ICAO Bird Strike Information System)に報告された、2001~2007 年の間に 145 の国や地域で起こった 42508 件の報告に基づいています。

- **64%**は Day Time、**24%**が Night Time に発生
- 年間の傾向は、北半球では **7月~10月**が最も起こりやすく、**12月~2月**が比較的少数
- **96%**が空港周辺で起きている
- **39%**が T/O~Climb フェーズ、**54%**が APP~L/D フェーズで発生している
- 報告された Bird Strike の内、**約 66%**が航空機に対してダメージを与えている
→ 内訳は **3%**が重大なダメージ、**8%**がマイナーダメージ、**89%**がかすり傷程度
- 鳥の種類に関しては、報告の約 65%は不明、又は報告なしであるが、報告内容の内訳は
→ **31%**が Passerine(スズメ)、**18%**が Gull(カモメ)、**15%**が Birds of Prey(鷹や鷲など)、**10%**が Pigeon(ハト)、**6%**が Waterfowl (水鳥) と続いている
- 衝突した場合、衝突回数の内、航空機へダメージを及ぼした回数の割合は
→ Passerine(ハト)は **3%**、Gull(カモメ)は **15%**、Birds of Prey(鷲など)は **19%**、Pigeon(ハト)は **11%**、Waterfowl(水鳥)は **43%**、Plover(チドリ)は **9%**、Heron & Pelican(鷺やペリカン)は **18%**となっている
- 衝突した航空機の部分は Wind Shield が **16%**と一番多く、Engine が **15%**と続いている。

以上、レポートの概要を数字に注目して挙げてみました。Bird Strike は安全運航に直接、且つ即座に影響を及ぼす事象だけに、日頃から運航に携わる全ての方面で準備、対策を行う必要があります。我々乗務員も、鳥類の生息する低高度でのスピード、外部監視による未然防止、実際に起こった場合に Bird Strike の報告など、積極的な取り組みが望まれます。



(参考:2009年1月29日発行、日乗連ニュース No32-33「Bird Strike 航空機はスピードに注意?」)